



謹賀新年

おかげさまで「東風」も10号(5年)

■みなさんと一緒に環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。



No.10

●発行日

2005年1月1日

●発行所

小倉東総合法律事務所

●編集者

荒牧 啓一

●連絡先

〒802-0062 北九州市小倉北区

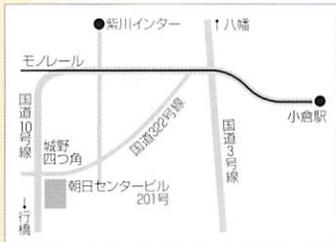
片野新町2丁目12番21号

朝日センタービル2階

TEL093(932)5575

FAX093(932)5600

e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



新年明けましておめでとうございます。「東風」もおかげさまで今回で10号となりました。ありがとうございます。

今年、戦後60年になります。悲惨な戦争を実際に体験した人がだんだん少なくなります。それでも「2度と戦争はしない」という平和への思いは子どもたちに伝えたいと思います。

日本国憲法は、前文で戦争の反省と平和への決意を高らかに宣言しています。しかし、憲法を変えようという動きが急です。自民党は、2007年の参院選を衆参同時選挙にして国民投票も行うという日程を明らかにしています。「いまや憲法は現実に合わなくなってしまった」とか「新しい時代に新しい憲法を」などといった憲法を条文もろとも変えてしまおうという動きです。

憲法「改正」論議の核心は、戦争の放棄と戦力の不保持を明確にしている憲法9条を変えようということです。世界でも有数の軍備を持つ自衛隊がイラクに派兵され、憲法が固く禁じている「集団的自衛権」を行使している「現

実」が、憲法9条の条文にそぐわなくなっている。「憲法の方を変えなくては」というわけです。9条を変え日本を戦争をする国へとつくり変える狙いをもっています。

したがって、憲法9条のほか基本的人権の制限をすることも考えています。国が戦争をし国民に協力させるためには、国民の権利を制限する必要があるからです。また、国が戦争をするためには、社会保障にお金を回せません。そこで国民の生存権を保障した25条の改悪です。こうした問題と一体に個人の尊厳が人権の基本であり、人権が尊重されて始めて平等があるとうたった24条の見直しも言われています。

世論調査によると憲法改正に賛成する人が増えています。しかし、9条「改正」反対は過半数を超えています。憲法を実際に読んだ人はそのすばらしさを理解してくれると思います。憲法「改正」は国民の要求に根ざしたものではないこと、従って粘り強い活動により憲法を守ることが出来ることに確信を持ちましょう。

いい読者さん、ありがとう

発行当初、3号まで出れば御の字…と自らささやいていた「東風」が10号を迎えることができました。5年を経て、ごく一部のマニア(?)の方に、楽しみにいただいているという「風の便り」を聞きつけ、ご本人にその気があるかないかに関わらず、全くの独断と押し付けで、励ましの文章を寄せていただきました。みなさまの温かい激励を肥やしに、これからも自己満足の域を越える斬新な紙面づくりに努力していきたいと思ひます。

いい匂い 岩猿 孝広(宇宙遊泳士・文筆業)



「励ましのおこたばを」と言われると、僕の頭の中では、「どうぞ遠慮なさらず褒めちぎってくださいな」に変換されてしまい、よしベタボメ、ベタボメと気ははやるのだが、書いては破りの繰り返しで一向に進まない。『東風』に褒める内容がないからでは勿論ない。これはひとえに僕の性癖によるものだと思う。人を褒める言葉は「いいね」くらいしか知らないのである。貶すことに関しては、朝から夜中まで延々と相手を罵倒し続けることが出来るくらいその語彙力には自信があ

るのですが。さて、『東風』の紙面からは微風とともによい香りが漂ってきます。それは荒牧弁護士フェロモンゆえなのか、あるいは写真でしか知らない事務所の方々の笑顔が醸し出す香りなのか、いずれにせよ信頼感に満ちたいい匂いです。とかくこのような事務所便りはプロパガンダの色が出てしまいがちですが、常に環境問題を念頭において編集されている『東風』にはそれが無い。事務所の方々の上質な人格ゆえだと思ひます。

心にひびく「東風」 八記久美子(門司の環境を考える会)



スタッフの仲がよく、発想がのびのびしていて、頼りになる法律事務所…それが東風を読むうちにできあがった、私の小倉東総合法律事務所のイメージです。法律事務所のEメールアドレスがぼんぼこ(ponpokoko)なんて「恐れ入りました」という感じだし、法律事務所のニュースなのに、環境問題をメインに取り上げ続けているのも変わっています。でもなぜ環境なんだろう。いま北極熊の体内からもPCBが検出さ

れるなど、どんなに離れているようでも、大気や海流の循環で汚染は地球全体に広がり、すべての命あるものはその生存が危うくなっています。まさに、環境汚染は緩慢な殺人です。あっそうか、殺人事件だから法律事務所のニュースに取り上げられているのかな…。まあともあれ、ちょっとわくわくする東風、心がほわっと暖かくなる東風、思わず笑ってしまう東風が、これからも我が家に届くのを楽しみにしています。

あらま、きれいに変わって! 内山 新吾(弁護士)



荒牧さんのイメージが、変わってしまった! 同期で修習していた頃は、神田川沿いの殺風景な下宿、押し入れの中には、洗たく物、心の中には春香岳を抱く青年…というイメージだったのに。ところが、なんだ、この「東風」は!?! おしゃれなのである。写真1枚1枚のセンスが良く「しびれる」のである。レイアウトや色のトーンも実にやさしい…。これは、荒牧さんじゃない(きっと、とびきりセンスのいい事

務員がいて、その人が仕切っているにちがいない)、それとも、僕は荒牧さんの本当の姿を知らないだけなのか…。このニュースのすごいところは、「司法」が出しゃばらずに「市報」(市民のニュースという意味)になっていること。「事務所」ニュースの枠を越えている。しかも、「市報」しながら、ちゃっかり「事務所ニュース」しちやっている(適度に所員の顔が露出している)ところが、にくい。これからも、新しい風を感じる力と、新しい風を吹かせる力にあふれる紙面を!



スタッフの人間性が見えてくる



法律事務所のニュースとは思えない内容に驚かされます。巻頭言も読み応えがあって好きなのですが、個人的には4頁の「テーマ」にそった話が一番面白いと思っています。事件や法律関連の事項を中心におかない編集方針も、スタッフの皆さんの人間的な面白みと専門外の分野にもアンテナを広げている事務所の姿を伝えることに貢献していると思ひます。

ステキな写真でいい雰囲気



いつもステキな「東風」のお便りありがとうございます。まず、一番の印象は、写真がとてもきれいだということです。また、法律事務所の皆さんが登場する「その時々のお出来事への思いや近況」は、とても楽しく読ませていただいています。それぞれの雰囲気がよく伝わってくる感じがします。いま、自民党、民主党を中心に、憲法9条(戦争放棄)を改悪する動きが強まっています。しかし、アメリカのイラク戦争に対する世界



東風の一愛読者として

千綿俊一郎(弁護士)



東風の10号発刊(年2号ですから5周年ですね。)おめでとうございます。

私は、東風第1号創刊の際に、修習生として原稿を掲載して頂きました。それ以降、東風は毎月送ってもらい、愛読しています。

東風は、写真が多く全体として紙面がきれいで、掲載される記事も「地球に優しい」ものが多いことなどといった点で、所長である荒牧弁護士同様「癒し系」の仕上がりになっています。

巻末の事務局・弁護士のあいさつの欄も、当初「20世紀に置いていくもの、21世紀に

持っていくもの(2号)」「環境を考える(3号)」とやや硬めの内容となっていました。次第に「私のワールドカップ(5号)」「私のオリンピックピック(9号)」となり、いい感じに「ゆるい」内容と変わっていています。7号にいたっては、「夏だ、氷だ、ヒーローだ」と、ちょっと聞いただけでは意味の分からないものとなり、シュール感さえ漂ってきます。

この辺り、スタッフの皆様が編集作業を楽しんでおられるところが目に浮かぶようです。

東風は、「新着情報」など手の込んだ記事も多く(私はこのコーナーのファンです。是非、継続して下さい)、大変だとは思いますが、今後も楽しい記事作りを期待しています。

熱意を感じさせる紙面

吉田 素子(市民オンブズマン北九州)



五十里智香子さんとうたごえで知り合い、「北九州うたごえ創作会議」の歌が「新鮮情報」に取り上げられたのがきっかけで、「東風」を知りました。その後我那覇弁護士が東事務所に移られてオンブズマン事務所にも「東風」が送られてくるようになり、ご縁の深いものとなりました。

鮮明な写真ときれいなカラー印刷、上質紙だし、相当お金がかかっているなと思いますが、見て楽しいですね。しかも読み応えがしっかりあります。今回改めて「東風」を読

み直して、荒牧先生の並々ならぬ熱意を感じます。

法律の話は出てきませんが、住民運動を取り上げた「市民の挑戦」などは、住民の立場に立たれる弁護士さんならではの取材でしょうか、さまざまな情報があって特に書籍コーナーなど目を開かされます。いつも楽しく読ませていただいているのが最後のページです。皆さんの素顔が見られ、和やかな事務所の雰囲気伝わってくるようです。

変わってないじゃない

牧野 丘(弁護士)



おめでとうございます。お祝いにと言っはなんですが、1枚の写真を提供します。約22年前、われわれの司法試験合格発表のときの記念写真です。当時の法務省の中庭で、早稲田で勉強していた皆さんと一緒に撮ったものです。懐かしいですねえ。なぜこの写真を持ち出したかというと、先生の以前の事務所ニュースに、「自分は結婚(弁護士になってからのことです)してから、10キロ以上も肥った」というフレーズを見つけたものだから…。全く変わってないじ

やないですが、荒牧先生!多少、顎の下の雰囲気が変わったかなあ。ちなみに私はその隣に写っています。私を知る人に見せると誰もが笑い転げます。肥ったし、老けたし…。

先生と私は、小倉と浦和に離れていますが、色々な会合で、割とよくお会いしますよね。いつも感じるんです。荒牧さんは変わらないなあ…。お仕事で大活躍なさっていることはよくよく承知しているのですが、話しの内容や話し方まで変わりませんよねえ。で、それが先生の大きな魅力だと心底感じています。どうか若い頃と変わらぬ魅力を引き続きお大事に。今もなお、おっとりとした口調で過大な要求をしているのだろうなあ。

富崎 豊和(東総合/0 IT顧問)

このような業務には現れない事務所の姿を伝えるということは、事務所のニュースの重要な役割のひとつではないでしょうか。一般論としては、事件や法律関連の解説も求められているかもしれませんが、現在の発行回数と紙面ではその要望に応えきれないのではないかと思います。

年2回とはいえ、毎号の編集作業には大変な労力が必要だと思いますので、軽々に「ますますのご発展を…」とは言えませんが、これからも読み応えのある「東風」をよろしくお願いします。

5 正信(小倉北区・市会議員予定候補)

の声は、「戦争やめよ」が大きな流れです。日本の戦争をしないと誓った平和憲法の考えが世界に広がろうとしています。こうした流れに逆行する憲法改悪は、ストップさせなければなりません。これまで私も「平和のための戦争展」などの運動に参加し、子ども達に平和な日本を残そうと活動してきました。「東風」が平和やくらしの「市民のしゃべり場」としての雰囲気を生かして、がんばっていただきますよう期待します。私も「憲法を守ろう」の灯をともし、当選の向け全力でがんばっていく決意です。

さわやかな風をとどけます